

合併1年を過ぎて 市長と語る

昨年3月に誕生した対馬市も1年を過ぎました。

そこで、5月10日に、美津島有線テレビのスタジオで、各分野の市民の皆さんと市長が対馬市の抱える問題や将来に向けたまちづくりについて対談する「市長と語る」を実施しました。

司会…皆さん、こんにちは。まずは出席の皆さんの自己紹介から始めたいと思います。まず、女性代表の小嶋さんお願いします。

小嶋…私たちの健康は私たちの手でスローガンに、食を通じて地域の健康づくり活動を推進している食生活改善推進協議会の小嶋です。

私は、対馬市開庁式の時、女性代表として「対馬市」の船出のテープカットをさせていただきました。6町が一つになって明るい未来が開けていくのが楽しみに感じたことと一抹の不安も感じました。それは、細長い島のこと、過疎のこと、財政のことなどでした。

司会…小嶋さん、ありがとうございます。次に中庭さんお願いします。

中庭…私は豊玉町廻で従業員12名を雇用して「中庭水産」を経営しています。

合併に伴い、今まで6町で別々に行われていた水産関係の行政が、一つの大きなものになり、水産業の振興に大

きな期待を持ちました。司会…次に菅野さんお願いします。

菅野…上対馬の菅野です。率直な話、合併は降って湧いたような雰囲気でした。合併の必要性の説明が不十分だった。合併に係る手続きも客観的に見ていたのではないかと思う。

国からの地方分権といえ、対馬から見ると中央集権。今まで六つの山だったものが、一つの山になるわけですから、裾野が大きくなって、末端まで伝わるのが果たしてどうなるのか眺めていました。

今日はいにく車がなく、久しぶりにバスに乗ってききましたが、ここまで来るのに2時間半かかってしまった。改めて対馬の大きさを痛感しました。司会…3名の皆さんありがとうございます。市長、3名の方のお話を聞いていかがでしょうか。

市長…皆さんのご意見はよく聞いてみたいと思います。合併については、あまり良い評判が入ってきませんが、あと3年間よろしくお願いします。

司会…そんな中ですが、「市民球団」については、どんな思いがございませうか。

市長…かつて名球会を招いたことがあって、その時の子どもたちの感激した様子を見て、合併で島が一つになり、



合併は説明不足だと語る
菅野 慶 全さん

みんなが一体感を持つにはスポーツが一番ではないかと思った。

村田さんとは数年前に知り合って相談したら実現した。この市民球団を通じて対馬の元気づくりをしたい。

まちづくりは、市や議会だけで出来る時代じゃない。みんなでまちづくりをしたい。

菅野…大賛成。スポーツは子どもたちの育成に非常に良いと思う。戦国時代の頃、武將は戦の中お茶を楽しんだと言います。忙しい時ほどゆとりを持てれば良いのではないか。その道具として、国民的な競技である野球は共感できるスポーツだと思つた。

司会…司会の不手際で本題に入ることが出来ませんでした。これからは「合併から1年を過ぎて」をテーマにお話をしていただきたいと思つています。

菅野…それでは私から、まず良かったことは、各種委員に見識を持ったすば

らしい委員が揃ってきたのではないかと。これは、今まで6町にあったものが、一つになり厳選されたからだと思う。

こんな話じゃなかったと思つのは、合併協での協議事項は現実に合っていないのではないかと、支所の活力が無くなりつつある。それに伴い町に活力が無くなりつつある。これをどうするか。

また、合併したら過疎が無くなるという夢を与えすぎたのではないかと。合併協の掲げた理想と現実のギャップをどう埋めるのか。

市長…確かに皆さん合併すれば今よりも良くなると思つてらっしゃった。それに無責任なところもあった。理想を上げすぎたと思つた。

ただ、国を含め財政がどうにもならなくなつた。あまりに公共事業に依存していたと思つた。しかし、逆に合併していなかったら、予算が組める町は一つも無かつたのではないかと思つた。

また合併協では、支所機能を高めるため、7人の助役をたてようとしたが、やはり財政の建て直しが先決。その中



合併後の財政について語る
松村 市長



漁協合併について語る
中庭 功さん

で職員数の800人をどうするかが一番の問題で、仮に200人リストラできれば、単純計算で給与その他経費で22億円が浮く。そのための機構改革を行っているところです。

これですまず支所の活力が無くなってしまうが、今までの行政サービスとは違うかゆい所に手が届く窓口業務を進めていきたい。さらに管理職手当などもカットして現実に合った改革に取り組んでいる。3、4年すれば合併の効果も表れるのではないかと思う。

中庭…漁協の合併の話が進んでいる。お考えはいかがか。また、合併に伴い市としての支援はいかがか。

市長…まず第1回の漁協合併は成功だったと思う。不良債権処理のため、信連などが基金を積み立てたことが結果につながったと思う。

しかし、今回の場合は、その基金が使えず難しいのではないか。無理に合併は必要ないと思うが、漁民の生活に必要な信用事業が成り立たなくなれば合併も必要だろう。市としても総意ができて合併となれば何らかの支援を考える必要があるだろう。

司会…中庭さんは、魚のすり身などの加工も手がけてらっしゃいます。その点はいかがですか。

中庭…定置をしているので、新鮮な材料はある。ただ、練り製品については長崎には数百年の伝統を持つ業者がいて厳しいところがあるが、パリという魚を使って、いままでも市場に出しても値がつかなかった魚を使って金にしようとして頑張っている。

市長…今まで捨てていた魚を金に出来るのはいい事だと思う。中庭さんのようにリスクを負ってでも頑張るやる気のある人が多くなれば活性化できるのではないか。

中庭…漁協の合併についてはやはり必要だと思う。今のままでは船を更新したり、漁具を買おうとしても資金が借りられない。跡継ぎに漁業をさせたくても、投資が出来なければ競争に負けてしまう。

今までの合併は、国や県からの押し付けだったが、下から積み上げての合併なら違ってくるはず。また、部門での合併でもいいと思う。たとえば販売を一本化して、購買部門を合併して、それを積み上げて最終的に合併できれば良いのではないか。

司会…時間のこともありますので、ほかにご意見を伺いたいと思います。

小嶋…まず合併でのメリットは、食改の変化について、今まで保健所が事務局を持っていたが、合併になり市が事務局を持った。これは県下で初めてです。それと食改員さんの数が増えた。これは市のほうで増やす事業をやった



合併のメリット・デメリットを語る
小嶋多鶴子さん

もらったからで、今年もやってもらう。2年続けてやるのも県下で初めて。それに広報に「食改コーナー」を載せてもらって食改の活動を紹介してもらいありがとうございます。

デメリットとしては、食改の基本は伝達講習にあるが、人口の一番多い蔵原町の仮の文化会館は調理室が無い。新しい公民館の完成まで2年待たなくてはならない。この2年が大事。どうにかしてもらいたい。

それと質問で、市になって新規採用はないのか。それと韓国からの交流人口の推移と経済効果はどうか。

市長…早くから九電跡を借りていたようだが、借りる前にそのような必要ない設備は準備しておくべき。今更言っても駄目だから、美津島の文化会館などを利用してほしい。2年待てばよいものが出来るので我慢いただけないか。

それに再開発については、既に計画が進んでいて、大幅な変更も出来ない状況だった。本来なら文化会館は崩れなくなかったが、区域変更を行うと既に投入していた10億もの金が無駄になる。そのために図書館などの新設を行

うなどの変更にとどまった。

職員については、財政再建できるまで待っていたらいい。

小嶋…ただ、新しいことに対応するためには、新たな頭脳が必要だと思う。若い人の力、頭脳を一人でも二人でもお願いしたい。

市長…確かにそうですね。しかし、無い袖はふれない。ご理解いただきたい。韓国との交流は、2倍近く増えているが、国内からの流入は低迷している。今いろいろな種をまいて、仕掛けをしているので増えていくと思う。今しばらくお待ちください。

小嶋…シティーホテルは出来ないのか。
市長…夢のある事業に取り組みたい。上対馬のホテル用地への誘致を進めている。

市民球団は、子どもたちに夢を与えられればと考えたが、中には市長の道楽であんなものをつくってと言われていた。球団と言っても別に給料を払うわけでもなく、あれだけの選手が旅費だけで来てくれる。彼らはボランティアなんです。600万程の予算で、子どもたちに夢が与えられるなら良いこ



財政再建の取り組みを語る市長



対馬と釜山を結ぶ定期船「シーフラワー」

とではないかと思うのですが。司会…韓国からの観光客ということで、上対馬にお住まいの菅野さんご意見ございませんか。
菅野…過疎になれば、観光客のような流動人口は必要だが、韓国に軸足を置くのはいかなものか。やはり国内に軸足を置く必要があるだろう。
現況を見ると、対馬に入ってきても案内板や標識が不備で、行き先やどこに居るのか分からない。私たち上の人間も下に行ったとき分からない時がある。市民が分からないのに市外から来た人が分かるはずがない。
その手立てとして、佐渡では「佐渡100選」というものを作って文化や自然などの分野で観光PRをしている。

対馬ではこのような事がまだまだ遅れている。見せ場が作られていない。また、厳原に泊まった時、お店が9時、10時に開いていない。あれで観光と言っているがなっていない。現状に甘んじているのではないか。
司会…菅野さんは人権擁護委員というお立場でご意見がありませんか。
菅野…人は元来昼に生きるものだが、近年では夜も活動できるようになった。これが一番の間違いだと思う。
また、物が無ければ幸せではないのかということ、モンゴルの話、ウランバートルでタクシートの運転手をしてきた人が、引退して田舎に帰った。電気もガスも水道も無い、それで日本人が、その人に、「都会と田舎とどちらがいいか」と聞いたところ、その人は「どちらも楽しい」と答えたそうです。
対馬の今の問題がそこにある。物が無ければ、お金が無ければ幸せではないという考えが問題なのでないか。その観点からものを言うので、「何か造つてくれ」その答えが「いやお金が無い」となる。物が無くても楽しいと感じる自立が必要なのだろう。対馬人が誇りを持てる「ほどよい対馬民族主義」が必要ではないか。もう少し前の生活スタイルに戻ればいいのだと思う。
市長…菅野さんのおっしゃるように、スロータウンの発想が必要だと思つた。ただ考え方が変わらないことが問題、対馬しかない対馬イズムのものが出てくれば対馬も変わっていくのだと思つた。
やはり地域の活性化には、その地域

にしかないもので勝負する必要がある。対馬には有るものといえば、韓国まで50kmという位置、これは日本のどこにも無い。これを利用しない手はない。今、韓国からの流入が多くなっているが、なぜこんなに対馬にやってくるのか、国内に発信して国内からの流入増を狙いたい。
中庭…漁業を営むものとして、我々も福岡を向くよりも韓国に視点を向けなければならぬと思う。
これからの漁業は獲るばかりではだめ、育てていく必要があるが、漁師は一言目には「不漁だ」と言う。しかし実際は、まだまだ市場に揚げない未利用の魚種もあり、獲れた2、3割は捨てている状況、そんな未利用資源の活用を、本来は漁師や漁協がすべきなのだろうが、ノウハウの取得等に投資できないのが現状、このため、先ほどから物が無ければ幸せじゃないとの意見に対して申し訳ないが、研究的な「水産振興センター」のようなものが出来ないかと思う。そこで後継者の育成や技術者の育成ができないか。
市長…生産に直結するものであればやる必要はあるだろう。リスクを負うことは行政がすべき。済州島沖のアナゴや太刀魚などうまくやれば韓国に売れる。
小嶋…話は別になります。対馬縦断60分や下水道整備、人づくりとか意識改革を進めてほしい。行政として前例がこうだからと言うばかりでなく挑戦を。また、市民も行政に甘えるばかりでなく、自分ができること、汗を流



今屋敷再開発ビル完成予想図

すことが必要である。3、4月の異動時期、福岡では休日も窓口が開いていた。対馬でもやってほしい。
司会…他に新規事業についてはいかがですか。
菅野…ケーブルテレビについてはたいへん良いことだと思つた。広報誌というものもあるが、見ると言うより読むもの。ケーブルテレビは見て情報を得ることが出来る。



稚魚放流事業

小嶋…今屋敷の再開発については、長続きしないとだめだと思う。中に入る店舗も考える必要がある。市場調査したら外部からの入り込みは無いと思う。魅力あるものにしてもらいたい。

また反面、文化会館やコンサートホールは良いものが出来ると期待している。その良い施設を活用するため、市民楽団など出来ればよいと思う。

市長…そうですね。音楽の出来るホールなど、地域の活性化には自慢づくり、誇りづくりをやっていききたい。ケーブルテレビも同様。情報の共有化を図りたい。

中庭…魚礁を入れても今のところあまり効果が無い。海洋温度差発電に期待したい。

市長…温度差発電の誘致については、電気のことはさておいて、漁場づくりに活用したい。その相乗効果は20万人の雇用、数千億円の仕事と言われている。今年から来年に向けて何とか誘致できるように努力したい。

菅野…東洋的な思想で教育すべき。西洋思想は本能をたぎらす駆け引きがある。東洋思想はどしどしりと落ち着いた人物を創る。東洋的でないと西洋には太刀打ちできない。そんな人物を育てる文化振興協議会なるものを創ってもらいたい。また、文芸書の発行も出来ないものか。さらに、人づくりが推進され、情報発信のため、県の委員などにどんどん人材が出せないものかと考えます。

市長…儒教の心ですね。人づくりについては、市としても積極的に進めて行きたいと思っています。

司会…私の不手際で時間の方が残り少なくなってしまう。最後にこれだけは言っておきたいということばございませんか。

小嶋…魚は獲り過ぎていなくなったのではなく、住める環境が少なくなったのでしよう。主婦の立場で、エコ活動を通じて環境保全に努めたい。また、小さい時から環境問題については教育する必要があります。啓発カルタなどを配付して、自分たちから取り組めることを進めていきたい。

中庭…一市民として、合併して1年や2年で良くなるとは期待していません。私たちの役目としては、将来に向けて自然、文化財産を伝える必要がある。



2時間にもおよんだ対談

私は歴史の一定期間の中で、対馬を預かっているに過ぎない。それを自覚する必要があると思う。

市の財政が厳しいというが、それは既に分かっていた事だと思ふ。入れ物が大きくなったことで、行政と市民の距離が遠くなったのではないかと思う。ケーブルテレビを整備してもらって、情報の共有化を進めてほしい。

すばらしい対馬を、自分たちの子どもに伝えることが出来れば誇りを持つて。それを考えれば親ももう少し頑張れると思う。赤字のときこそ投資をお願いしたい。

菅野…先に行く者は、後から来る者に何かしてやる必要がある。市長も一國を背負ってたつ宰相は私だという感じで行っていただきたい。

市長…たいへんな責任を感じている。皆さんが言うように子や孫にいい島を遺していきたい。遺産づくりをしたいと思つていきます。26人の新市議と共に汗をかいてまちづくりを進めたいと思います。

自分たちのアイデンティティーを持つて、自信を持つてやることの重要性を感じた。今日は皆さんに勇気をもらった。また、財政については、情報開示の必要性を感じました。本日はありがとうございました。

司会…本日は皆さまお疲れ様でした。これで対談を終りました。

【出席者のプロフィール】

- 菅野慶全（上対馬町）住職、人権擁護委員
- 中庭 功（豊玉町）水産業、指導漁業士
- 小嶋多鶴子（厳原町）主婦、対馬市食生活改善推進協議会会長
- 松村良幸（対馬市長）
- 司会 II 阿比留えり子（MYTアウンサー）

なお、この対談を収録したビデオを各支所、公民館、出張所に準備しています。ご視聴希望の方は、各支所総務課にお問い合わせください。

また、対馬市では、この対談を今年度6回計画しています。市長と対談希望の方は、秘書課（53 6111）までお問い合わせください。